

能登山菜の生産振興による 能登地域の活性化に取り組んでいます！

奥能登農林総合事務所農業振興部



能登山菜栽培研修会



自生するおおばぎぼうし（うるい）

能登一円に自生する「ふき」「わらび」「うど」「たらのめ」「ぎょうじゃにんにく」などの山菜は、能登の春を感じさせる人気の食材で、市場からは出荷量の増大や出荷期間の拡大などが望まれています。しかし、山菜は広域な山野に点在しているため、出荷者の多くを占める高齢者にとって、採集作業は負担が大きく、これまでの自生山菜の山採りのみでは、出荷量の減少が懸念されています。

このため、当事務所では、これら山菜の生産倍増を目指し、自生する山菜に加え、遊休農地を有効活用した山菜栽培の推進に取り組んでいます。

平成22年9月には、関係機関が一体となって支援するため、能登地域の4市5町、7J Aと全農、県からなる「能登山菜生産振興プロジェクトチーム」を立ち上げ、関係機関が一体となって推進する体制が整いました。

プロジェクトチームが行った山菜の実態把握に向けた現地調査で、能登地域には約250種類の山菜があることが判明し、このうち約40種類の山菜について需要が見込まれることが、県内外の卸売市場や食品事業者に対して実施した需要調査で分かり、こうした情報を生産者に提供し、積極的な出荷を働きかけています。

また、栽培技術の普及を図るため、山菜栽培に意欲のある生産者を対象とした栽培研修会の開催、7カ所のモデル栽培実証ほの設置、優良種苗の安定供給体制の整備などに取り組んでいます。

現在、これらの活動をきっかけに、輪島市名舟地区では、集落の遊休水田10aを活用して、これまで能登では利用の少なかった「おおばぎぼうし（通称：うるい）」の栽培が始まりました。

当事務所では、引き続き栽培指導や新たな商品開発の取組を進め、能登の魅力ある産品に育てていきたいと考えています。

問い合わせ先：奥能登農林総合事務所農業振興部（0768-26-2323）